

『アサヒグラフ』の表紙に見るジェンダー表象(1)

－1926年から30年を中心に－

神 田 より子

はじめに

前回まで第二次大戦期における女子青年団のための機関誌『青年（女子）』を中心に、分析をしてきた。また『アサヒグラフ』に見る女子の戦争参加への道について、1941（昭和16）年10月8日号から、1944（昭和19）年3月29日号までを取り上げた⁽¹⁾。

今回は主に1931年から45年にいたる15年戦争の足音がまだ聞こえない、1926年から30年代に発行された写真週刊誌『アサヒグラフ』を取り上げる。大正末から昭和にかけての国内事情の一典型として、『アサヒグラフ』の表紙を中心に取り上げ、この雑誌が女性をそして男性をどのように取り上げてきたのかを考察する。この写真週刊誌は一般の男女を対象にしている。そうした読者を対象にした雑誌が、ジェンダー表象の視点からはどのように立ち現れてくるのかを分析してゆく。

1. 『アサヒグラフ』の沿革

『アサヒグラフ』は1923（大正12）年1月25日に日刊写真新聞として創刊し、関東大震災後に本格的なフォト・ジャーナリズムとなってゆく。この震災で東京朝日新聞は大打撃を受け、大阪朝日新聞が代わりに印刷を行うが、やり取りに時間がかかり、日刊としての刊行が不可能となり週刊誌となる。一方大阪朝日新聞社はドイツから輸入したグラビア印刷機を使うようになった。これにより週刊グラフはニュースの速さではなく、写真を主体としたメディアとなる。そして2000（平成12）年10月15日（4105号）をもって休刊となった。ただし2011年3月30日には臨時増刊『緊急復刊アサヒグラフ東北関東大震災2011, 3, 11全記録』（5060号）が復刊された。こうしてみると、2000年10月に休刊となってはいるが、この間にもこうした臨時増刊号がその都度刊行されていたことが予測できる。

以下ではアサヒグラフの成り立ちとその変遷を岡田任雄『朝日新聞出版局史』⁽²⁾から眺めてみたい。

『アサヒグラフ』は1923（大正12）年1月25日に日本で初めての日刊写真新聞として創刊された。第一次大戦におけるロンドンの『テイラー・ミラー』紙や、ニューヨークの

『デイリー・ニュース』紙の活動に注目し、新しい日刊写真新聞の発行を決意し、定価は一部三銭、月極めで一元だった⁽³⁾。発行の意義については「政治、外交、経済の硬さより、市井の雑事の軟きにいたるまで、漏れなく普通の新聞のように報道するとともに、毎号全紙の約三分の一は、写真と挿絵で日々の新事件を報ずる。読む新聞であって且つ見る新聞である。一日四六四倍判十六頁にして、特に漉かせた上等洋紙を用いる」⁽⁴⁾とある。

こうして1923(大正12)年1月25日、日刊『アサヒグラフ』が創刊された。目指した内容はアメリカやイギリスの一流写真新聞であり、市井の生活記事をもれなく読ませ、且つ見せることを目指したのだった。しかし、1923年9月、関東大震災により継続刊行が不可能になり、220号で姿を消した。

この間『大震災全記』（四六四倍判、グラビア8、写真40、本文32頁、英文説明付き、1円）を編集し、『アサヒグラフ』特別号として刊行した⁽⁵⁾。休刊中でも大事件があればすぐさまそれを取材し臨時の号を刊行する姿勢は、前述したようにこのたびの東日本大震災にもつながっている。

10月、機構が再整備され、『アサヒグラフ』は、週刊の画報雑誌として復刊した。復刊が週刊画報化の途をとった契機は、ドイツから到着したグラビア輪転機の稼働だった。東京で編集・割付し、記事部分を組み付けて清刷をとり、写真原稿に添えて大阪に送り、大阪で製版、印刷して、また刷本を東京へ送り返すという刊行方法だった。

復刊第1号は1923年11月14日付けで刊行され、表紙ともに24ページ、総グラビア印刷で、定価は15銭だった。表紙は「日比谷公園の花壇にて」のタイトルで、内容は「震災後初の天長節」「陸軍中佐にご昇進の東宮殿下」「復興途上の帝都」2ページ、「今年の院展」2ページ、「米国の震災救援活動」2ページ、「演劇写真」2ページなどと、「人物写真」として矢島楯子・柳原燐子・与謝野晶子・九条武子など、当時の有名な女性たちの写真が掲載されている。震災後であるが故に復興に伴う記事が目立つが、それとともに院展や演劇にそれぞれ2ページを割いている。前述した「政治、外交、経済の硬さより、市井の雑事の軟きにいたるまで、漏れなく普通の新聞のように報道する」とした姿勢は貫かれているのだろうか。「市井の雑事の軟きにいたるまで」というよりも、幾分ハイソサエティのレベルを意識した内容であり、これは後ほど分析する表紙に選ばれる人びとも共通している。そして人物写真に選ばれたのも当時一流とされる知識人や上流階層の女性たちであり、アサヒグラフの目指す方向は一貫していたようだ。

本文によれば「写真説明には英文が添えられ、戦時中は一時中断したが、昭和27年から復活し、主題を説明する英文コメントも付き、この雑誌の国際性を高めた。『アサヒグラフ』は離陸した。『ライフ』に先立つこと12年である」という⁽⁶⁾。

この「英文コメントをつけて、雑誌の国際性を高めた。」と、『ライフ』に先立つこと

12年である」という表現には、朝日新聞の自負がうかがえる。しかしこの自負も国際性とは何かを問うとき、次の表現との差違を考えずにはおれない。それは井上祐子が「外国人記者達は中国から多くの情報を得て、中国の人間の尊厳を懸けた戦いに共感を覚えてゆく。『LIFE』誌1937年10月4日号の「上海南駅の赤ん坊」の写真を1億3600万人が見たと紹介、英米のメディアは世論を反日へと導く大きな力となる。」⁽⁷⁾と述べた内容である。

『アサヒグラフ』は写真説明に英文コメントを付けることが、雑誌の国際性を高めることにつながったと理解しているようだ。世論に訴える術を知っていたライフの記者とはどこかで違っているように思えるのであるが、この時代の日本人が考える国際性の限界だったのだろうか。

1932（昭和7）年12月15日に『アサヒグラフ海外版』が創刊された。この頃の日本は満州事変を経て、国際的に不利な立場に立っていた時期だった。この『海外版』は写真を通じて、世界に日本を理解させようという考えで出発した。毎週の『アサヒグラフ』の主題の中から海外向けのものを選び、特別に取材したものを加え、『オーバーシー・エディション』として発行された。『アサヒグラフ』と同判型で、総グラビア印刷、36頁、50銭だった。

1933（昭和8）年9月『ジャパン・イン・ピクチャー』と改題、日中戦争が華南に及ぶ39（昭和14）年1月『ピクトリアル・オリент』と改題。日米開戦を直前に迎えた1941（昭和16）年10月、第9巻第10号で終巻となった。

昭和初期の『アサヒグラフ』について、当時の『週刊朝日』編集長の宮田新八郎は、「昭和初期頃の『アサヒグラフ』は、我が国唯一のグラフ雑誌で、当時のモダニズムの先端を行く週刊誌だった。新しいものを作ろうという意気が部内に燃えていた」と評している⁽⁸⁾。

震災直後にとったアサヒグラフの手法は、2011年3月11日に起こった東日本大震災への河北新報社の対応と同じである。仙台に本社がある河北新報社は、震災に際しても提携していた新潟日報社の協力で、一度も休刊することなく、被災者の方々に新聞を届け続けた⁽⁹⁾のだ。ある種のジャーナリズム魂がこうした非常時には発揮されるのであろう。

2. 表紙に見る『アサヒグラフ』（1926～1930）

今回は1926年から30年までの『アサヒグラフ』の表紙を中心に取り上げ、そこから立ち上がってくるジェンダー表象を考えてみたい。その際、15年戦争が始まる1931年から45年までは比較の意味で何冊か引用したが、詳細は次回に回すこととする。

井上祐子は『アサヒグラフ』について「たどたどしい者も貧しい者もそのままの人々の生きる姿を捉え伝えることで、国家の物語に回収されてしまわない地平を持ち続けていた⁽¹⁰⁾」と述べた。確かに雑誌の本文ではそれぞれの時代を生きた人々が写真として丁寧に描かれている。しかし今回紹介する表紙の写真200枚（1926年から44年、裏表紙2枚、2011年

3, 11大震災特集号を含む) の表紙写真を通して見えてくる内容は、果たしていかなものであろうか。

以下では一覧表の「アサヒグラフ1926年3月24日号～1944年3月29日号」(86～91頁) と表紙写真(NO.2472～NO.2571)(76～85頁) の中の、1926年から30年を中心に読み解いてゆく。本文の番号は写真の番号と、また号と年月日は一覧表にある内容と対応している。収集した資料はすべての『アサヒグラフ』を網羅しているわけではないので、統計を取ると実際の数との齟齬が生じるため行っていないが、おおよその概要はこれによって掴めるのではないかと考える。

一覧表を見て最も目についたのは、女性が表紙に多用されていることであり、中でもいわゆる令嬢の登場回数の多さである。大学教授、宮中顧問官、実業家、男爵などの父親の身分と名前、そして当人である令嬢の名前と出身校も書いてある。きちんとした服装でポーズをとっていることから、わざわざ表紙のモデルとして依頼して撮影した事がうかがえる。次いで女優や踊り子も多い。そして当然のことながら皇室、王室関係の方々を取り上げたものも多い。外国人も女優以外では上流階級とされているような方々を選んでいる。そしてアジア・アフリカからは表紙のモデルとして一人も選ばれていない。

以下ではおおざっぱな括りではあるが、対象を分類し、それぞれについて考察してゆきたい。そこでまず(1)女性、(2)男性、(3)皇室、王室とに分けた。その上で、(1)女性は固有名詞のついた令嬢、女優、有名人、固有名詞のない女学生、(2)男性は知識人、俳優、そして(3)皇室、王室とした。今回はその他に関しては言及しない。

(1) 女性の登場とその内容

令嬢

1926年は3月24日号から手元にある。これは春の夜の舞踏会(NO.2372)のタイトルで、ドイツ大使館で催された仮装舞踏会である。表紙の3人はフランス大使令嬢、大学教授令嬢、ベルギー大使令嬢である。6月2日号の石井淳氏令嬢礼子さん(NO.2383)は、モダンな髪型で太い縦縞柄の着物姿にマンドリンを抱えている。9月8日号の明治屋重役松本新太郎氏令嬢繁子さん(NO.2397)は当時のレディとしては珍しいショートヘアで洋装だ。10月6日号の実業家千種兵太郎氏令嬢チェリーさん(NO.2401)もショートヘアで洋装だ。しかも彼女の名前は桜子さんではなくチェリーさんだ。繁子さんもチェリーさんもきれいにパーマをかけてある。10月13日号の公爵ティマ夫人令嬢ドンナ・マリアさん(NO.2402)は、ローマで一番かわいらしいと副題がついた貴族の若いお嬢様だ。11月3日号の早稲田大学教授帆足理一郎氏令嬢喜與子さんとみち子さん(NO.2405)も若くて元気そうなお嬢様で、着ているものは学校の制服に見える。11月17日号の宮中

顧問官医学博士井上道泰氏令嗣康忠氏夫人敏子さん (NO.2407) は、最新流行の髪型に刺繍の入った襟とモダンな柄の着物姿で、女優さんのように美しい。

27年3月30日号の渡辺昭伯令妹愛子さん (NO.2423) は、縦縞の着物柄にモダンな髪型をしてピアノの前に座っている学習院卒業の伯爵令嬢だ。5月4日号は山元悌二郎氏令孫加寿子さん (表紙なし)。5月18日号の高橋たけゑさん (NO.2428) は、函館高女を出た素封家令妹で、モダンな髪型で縦縞柄の着物姿だ。5月25日号は岩倉具視男爵令嬢嘉子さんと直子さん (NO.2429) で学習院出身という。着物姿で大型犬と戯れている。6月22日号の窪田四郎氏令嬢雪子さん (NO.2433) は刺繍襟の着物姿で、雰囲気通りの少しおとなしめの髪型だ。7月6日号の澤村源之助氏令嬢の榮乃さん (NO.2435) は竜泉寺小学校4年生で、踊りと絵が好きだといい、髪飾りをつけて開いた扇でポーズをとっている。7月27日号の川端龍子令嬢千草さん (NO.2437) は夏のダリアの花畑でポーズを取っている。8月10日号は伏見直江さんと信子さん (表紙なし)。8月17日号の日清汽船会社社長森辯治郎氏令嬢雛子さん (NO.2439) は香蘭高女出身で、着物姿で大型犬と一緒にポーズをとっている。8月24日号の池田仲博候令嬢静子さんと温子さん (NO.2440) の二人はともに大きな柄の着物姿である。8月なので浴衣だろうか、二人とも日傘を手にはしている。10月5日号は大森の星野正三郎氏令嬢の米子さん (NO.2446) で、大きな青い目の人形を抱えた小さなお嬢様だ。10月19日号は西郷従道候清子未亡人と二人のお孫さん (NO.2448) で、澁刺とした女学生のような。11月23日号の東春子さん、冬子さん (NO.2453) は着物姿の若い姉妹で、二人とも童踊りが大好きだという。

28年2月8日号の薄すゞ子さん (NO.2464) は元陸軍大学教授蒲寧氏令嬢で、モダンな髪型に花の飾りをつけ、毛皮のショールを巻いた横顔の美人だ。2月22日号は有島生馬氏令嬢暁子さん (表紙写真なし)。3月7日号の安部磯雄氏と一緒に令嬢 (NO.2467) は女学生姿だ。3月14日号の佐藤市太郎氏令嬢豊子さん (NO.2468) は、春の光を見つめるおっぱ頭で着物姿のお嬢さんだ。4月4日号の林博太郎伯令嬢寿子さん (NO.2471) は、今年女子学習院を卒業されたという。モダンな髪型で着物姿だ。5月9日号の藤間静枝一門の良子さんとみよ子さん (NO.2476) は振り袖姿で童謡舞踊の真っ最中だ。8月1日号は会計検査院勅任検査官井上綾太郎氏令嬢敬子さん (NO.2485) で、実践女学校専門部国文科に在学中だという。モダンな髪型で着物を着て植物に手を添えたポーズだ。

29年4月10日号は葦原信之氏令嬢喜美子さん (表紙なし)。7月3日号の戸田直道氏令妹知子さん (NO.2519) は双葉高等女学校の出身という。庭を背景にした着物姿で深窓の令嬢のようだ。9月25日号の笹田美佐子さんと轟美津子さん (NO.2528) は実りの秋のど真ん中にたたずむ。11月27日号の実業家本田福之助氏令嬢美江子さん (NO.2536) は、京華高等女学校出身で、モダンな髪型で着物姿の美人だ。

30年1月8日号の代議士磯野庸幸氏令嬢寿子さん(NO.2540)は床の間の前に座り着物姿で盆景のような物を作っている。1月22日号の東武鉄道支配人塚田氏令嬢君子さん、秀子さん(NO.2542)は二人とも着物姿で、一人は琴を弾き、一人は花を生けている。2月12日号は実業家鈴木有蔵氏令嬢斐子さん(表紙なし)で、残念ながら30年号は手元にこれ以降の資料がない。

女学生

ここからは女学生を見てゆこう。表紙に女学生が使われているのは意外に少ない。27年11月2日号の明治神宮(NO.2450)のタイトルの表紙には、神宮から出てくる女学生の列が見える。28年1月11日号(NO.2459)は、赤倉スキー場で練習中の東京府立第六高女生で、タイトル通り4人の女学生がスキーの板に乗っている。まだ女学生のスキーは珍しかったのであろう。10月31日号も府立第六高女生による氷上遊戯練習(表紙なし)だ。11月13日号(NO.2534)は明治神宮の競技場で友の妙技に驚喜する女学生だ。11月20日号(NO.2535)もアメリカの農村の少女たちの姿だ。これらは個人が特定されるものではなく、匿名性が高く、「女学生」「少女」という表象のみが目につく。

有名人

28年5月30日号の御子柴初子さん(NO.2478)は水泳選手だ。30年5月28日号の表紙にも掲載されているが、この号の表紙は手元にない。29年2月6日号の女子整容学園山本久栄さん(NO.2506)はパーマをかけた髪型に縦縞柄の着物姿で、令嬢たちのスタイルと共通するが、お化粧もしっかりとしていて華やかな印象である。28年1月4日号はイギリス実業家ハリスン氏夫人(NO.2458)で、ショートヘアーで澁刺としたお嬢様のような。しかし彼女のファーストネームがないのは、いかなる発想なのか。

女優(踊り子も含む)

女優の登場回数は多い。男性が歌舞伎俳優の菊五郎と羽左右衛門だけだったのに比べると、令嬢に匹敵する頻度で登場している。しかも外国の女優も多く、映画を通して多くの人の目に焼き付いている有名人も多く見られる。

26年は4月14日号の春の踊り(NO.2376)で、大阪松竹座の「桜の巻」だが、舞い手は不明だ。4月21日号の龍田静枝さん、三島洋子さん、衣笠英子さんの3人(NO.2377)は女優さんだ。3人ともかなり派手な着物姿で、二人が日本髪、二人が日傘を持つ。5月26日号(NO.2382)は子役時代の小櫻葉子さんで、この頃に松竹撮影所に入ったという。この年齢で表紙を飾るほどの有名人だったことがうかがえる。顔立ちも髪型も外国人のようだ。

6月16日号(NO.2384)はユニバーサルの新スターというブランチ・メハフィさんで、二の腕もあらわな姿でショートパンツだ。日本ではまだなかなかお目にかかれないスタイルで、日本製のような日傘をもっている。6月23日号(NO.2386)は女優の松井千枝子さんで日本髪に着物姿だ。8月4日号(NO.2392)は新派女優の水谷八重子さんで、天洋丸にて、22日に帰朝したという。船の中で颯爽と歩いている姿は自信を現しているのだろう。当時の日本女性にはめずらしい帽子姿だ。8月25日号(NO.2395)は由比ヶ浜にて石井舞踊の花形とあるので、プロの踊り手なのだろうか。舞踊の衣装に日傘を手にして、「モデルです」を絵に描いたような光景だ。石井舞踊の踊り手たちは何度か登場しているから、水着姿によって季節の風物詩を表現するには格好の素材だったのだろう。9月29日号(NO.2399)はユナイテッド社のマーナ・ケネディさんで、チャップリンに見出されたという。パレットをもってキャンバスに向かっている姿だ。映画の中の一場面でもあったのだろうか。10月20日号(NO.2403)は1923年に公開された「ノートルダムのせむし男」の主演女優パッシイ・ルース・ミラー嬢だ。満月を背景にしたこの表紙はバンジョーのような楽器を弾いており、「十三夜」の月の精の副題がつく。12月8日号(NO.2410)は有名な女優ナンシー・ケリーさんで、5歳の子役だが、7ヶ月間に6本の映画に出たという。

27年7月20日号(NO.2436)はミス・アドコック古典舞踊学校の踊り子さんだ。9月27日号(NO.2445)は築地小劇場の女優の谷崎龍子さんの着物姿で、清楚なお嬢様のイメージだ。全身を写していて、抜群のスタイルだ。10月12日号(NO.2447)のマルタ・マジソンさんは舞台女優だ。11月16日号(NO.2452)はポーリー・ウオーカーさんで、派手なコスチューム姿で猫を抱えており、ニューヨークで人気の踊り子さんと言う。11月30日号(NO.2454)は師走狂言のお稽古という副題で、着物姿の帝劇女優小林延子、森律子、村田嘉久子、村田美禰子の4人が「湯島掛額」という芝居の稽古をしている。12月21日号(NO.2457)は、花をあしらったクリスマスリースの真ん中に顔を出した映画スターのサリー・フィリップさんの表紙だ。

28年9月5日号(NO.2490)は松竹蒲田の藤田房子さんと陽子さんで、姉妹そろって子役だった。10月10日号(NO.2494)は大女優栗島すみ子さんの「四君子」に扮装した姿だ。

29年2月20日号は野外練習に出る石井舞踊研究所の生徒さんたち(NO.2508)だ。3月6日号は花柳壽満さんと濱田尚子さん(NO.2510)で、名前が舞踊家のようなのだが、傍らの猫と一緒にタイトルは「春の日ざし」。6月5日号の石井舞踊研究所の小浪さんと百々さん(NO.2516)の表紙は合成写真のようで、まるでアクロバットダンスだ。

30年3月19日号はメリー・ブライアンさん(表紙なし)。8月20日号は舞踊家の高田せい子さん(表紙なし)。11月19日号は舞踏会の新明星(表紙なし)で、当方の情報不足で、30年は言及する程の資料がない。

(2) 男性の登場とその内容

有名人、知識人、政治家

26年11月10日号 (NO.2406) の櫻井錠二博士は、第三回汎太平洋学術会議会長をつとめた。27年3月2日号の渋沢栄一子爵の表紙資料はない。27年4月27日号は新総理大臣男爵田中義一 (NO.2427) だ。28年5月16日号の東郷元帥の表紙はない。28年10月24日号 (NO.2496) は国際水泳大会百メートルの覇者ワイズ・ミュラーだ。

俳優

男優が登場するのは二人のみで、菊五郎と羽左衛門である。26年は4月19日号の菊五郎の助六 (NO.2381)、29年は1月16日号の羽左衛門の松王丸 (NO.2403) で、二人とも歌舞伎の扮装だ。このときの菊五郎は六代目で、演劇の神様、不世出の名優と呼ばれた⁽¹¹⁾。また市村羽左衛門は一五代目で、彼も菊五郎と並び、近代を代表する役者と称された⁽¹²⁾。

(3) 皇室、王室

26年3月31日号の二見浦の澄宮様 (NO.2373) は、関西ご見学の際に立ち寄ったという。学習院の制服を着て、警護らしき人も含めてお付きが数人、神職が先導している。4月7日号は皇孫照宮成子内親王殿下 (NO.2375) で、これが初めてのお写真だという。5月5日号の雄々しき澄宮殿下 (NO.2379) は、この日第11回目の菖蒲の節句を迎えるという。9月1日号は瑞典皇太子歓迎号でグスタフ・アドルフ皇太子とルウイズ妃殿下。9月22日号は瑞典皇太子同妃殿下、12月15日号は照宮成子内親王殿下 (NO.2411) で、12月6日に初お誕生日を迎えた。12月22日号 (NO.2412) は聖上陛下御見舞の東宮同妃両殿下で、車で葉山御用邸を出るところ。

27年1月1日号 (NO.2413) は弔旗と宮城、1月5日号 (NO.2414) は新天子登極第一の大儀たる朝見の御式に赤坂離宮を御出門、1月12日号 (NO.2415) は秩父宮殿下、1月19日号 (NO.2416) は英国ご出発の秩父宮殿下、1月26日号 (NO.2417) は秩父宮殿下ご乗船サイベリア丸、2月2日号 (NO.2418) は御大葬号第一輯、2月9日号 (NO.2419) は御大葬号第二輯、2月16日号 (NO.2420) は特別増大御大葬号第三輯、1月1日号から2月9日号まで黒枠の表紙で、2月2日から16日までは御大葬特集号となっている。9月7日号 (NO.2442) は北アルプスの日笠岳に登山をされたときの秩父宮殿下だ。

28年1月18日号 (NO.2460) は、秩父宮殿下の御妃に選ばれた松平節子嬢、7月4日号 (NO.2482) は横浜埠頭に着岸した船上でハンカチを振る松平節子姫、10月3日号 (NO.2493) は秩父宮妃殿下の慶事に先立ち、松平勢津子姫との学習院教授と同窓生の集いだ。11月7日号から5号連続して御大典特集号となる。表紙にはないが、11月7日の御大典号第一輯の3頁には天皇陛下と皇后陛下の御真影がそれぞれ掲載されている。

29年4月29日号（NO.2512）はグロースター公殿下の歓迎号で、殿下は乗馬姿だ。

以下ではこれまで見てきた女性（令嬢、女学生、女優）、男性（有名人、知識人、政治家）、皇族、王族の順にこれらの写真を詳細に見てゆくことにしよう。

3 表紙に見る1926年から30年

(1) 女性たち

令嬢、その他

まず令嬢から見て行こう。この時代の表紙から、当時の令嬢たちの髪型や着物の柄の流行が見えてくることだ。『アサヒグラフ』は少女向けでも婦人向けの雑誌でもない。しかし名前入りで表紙のモデルになることは大変名誉なことだったのだろうし、ましてや名士としての父親の威光を背負っての登場である。本人が最も気に入っていて、当時最も晴れやかな流行の衣装を身につけていたことは想像できる。

26年3月24日号（NO.2372）は、大使館主催の仮装舞踏会に出席した大使や大学教授の令嬢だ。3月下旬号なので、その少し前に催されたカーニバルとかファッシングなどと呼ばれる謝肉祭の仮装パーティの写真であろう。男性陣も仮装をして出席しているはずだが、見られる素材としては令嬢が一番だ。

9月8日号の松本繁子さん（NO.2397）と10月6日号の千種チェリーさん（NO.2401）はともにショートヘアーで洋装だ。21世紀の現代に移しても全く違和感のないモダンなお二人だ。そして着物姿のお嬢様たちの間では縦縞の柄が目立ち、それもかなり太い縞模様だ。この着物柄が当時流行していたことがうかがえる。29年2月6日号の山本久栄さん（NO.2506）は当時有名な美容家だったとされているが、令嬢たちとも共通するパーマをかけた髪型に縦縞の柄の着物だ。このスタイルは若い令嬢も著名な職業婦人も共有できる当時の典型的な装いだったといえよう。山本久栄さんは『美容全集』（騒人社書局 1928）、『手軽にできる美容法』（帝国教育出版部 1930）などの本を出版している。この当時職業を持った女性が『アサヒグラフ』の表紙に載るのは大変珍しく、今回発表した資料では女優を除くと唯一の例である。

一方井上道泰氏令嗣夫人敏子さん（NO.2407）は、女優のように美しく、着物の柄もかなり大胆で、さらに刺繍入りの半襟をつけるなどおしゃれ度が高い。心なしか化粧も濃いように見られる。また女学生や小学生を除き、ほとんどのお嬢様たちはパーマをかけたモダンな髪型で、日本髪はほとんどない。『年表 近代日本の身装文化』によると、1922年6月号の『婦人画報』には「欧化された髪の色」と題してウェーブのある髪の色について「洗い立ての、さらりとした黒髪に鍔を当てて、少し波を打たせて上品に結い上げた近頃

流行のハイカラな女の髪も、見捨てがたく美しいものです。』⁽¹³⁾とあり、多くの令嬢もこの流行に乗っていたことがわかる。

女学生のように見える西郷従道侯の孫娘 (NO.2448) は二人とも帽子をかぶっているが、この表紙以外に帽子姿の一般女性はいない。例外は洋行帰りと思われる船上の女優水谷八重子だ。帽子をかぶり花束を持って颯爽と船の甲板を歩いている。帽子をかぶるのは今も昔も皇族の方々の特権なのだろうか。そして表紙に配置された小道具にも注目してみたい。石井淳氏令嬢礼子さん (NO.2383) は、弦楽器を手にしているし、渡辺昭伯令妹愛子さん (NO.2423) は、ピアノを前に座っている。楽器を手にポーズをとるのはお嬢様の王道⁽¹⁴⁾なのであろう。伝統的な琴演奏と生け花の姿は東武鉄道支配人塚田氏令嬢君子さん、秀子さん (NO.2542) の1回のみだった。こうした伝統的な道具立てが少ないのは『アサヒグラフ』の指示なのか、それとも新しい物を好む父親の指示なのか、あるいは本人の選択なのか、なかなか興味が尽きない。そして大型犬と一緒に写っている写真も数枚あった。当時こうした大型犬を飼える生活環境をどれだけの人たちがもっていたのだろうか。

『アサヒグラフ』が週刊誌化して以降、多くの良家の子女といわれるような令嬢たちが名前入りで、さらに出身女学校名まで入って表紙を飾った。彼女たちそしてその親たちが写真に撮られ、大新聞社の写真週刊誌の表紙になることを受け入れる背景として、昭和に入る前の時代を少し見てみよう。

佐久間りかによれば、明治末から大正にかけて発行された婦人雑誌のグラビアには、最初のページを皇族の女性たちが飾り、その後は華族の女性、大学教授や文学者、財界人の妻女がその後続く。かつて深窓に囲い込まれていた奥方や姫君が、突如被写体として「見られる」存在になった。それは上流階級の女性は、欧米文化の影響をより強く受けており、写真に対する抵抗感がなかったからだという。さらに皇族、華族の女性たちを公の場に出し、一般女性の範とすることで、近代国家の秩序の中に女性を組み込もうとする明治政府の意図も見え隠れする。この時期、貴婦人を近代女性の理想的なモデルとして国民に広めるのに貢献したのが、婦人向けのグラビア誌だった。華族、皇族だけではなく、資本主義経済の進展する中で作り上げられた新しい階級社会の序列が反映されていた。女性誌の場合はファッションなどの流行情報の発信源でもあり、さらに未婚令嬢の写真は花嫁候補のカタログとしても使われた⁽¹⁵⁾という。

佐久間の文章から『アサヒグラフ』の令嬢を通してしてみると、まさしく未婚女性の花嫁カタログと読み解くことも可能になってくる。そしてそれはその父親の名声に箔を付ける一助ともなったと推察できる。佐久間は被写体が名士・英雄であるとき、あるいは役者の場合、その写真はイメージの消費に止まらず、生身の彼らにまつわる物語を消費することを意味する⁽¹⁶⁾と述べた。「令嬢」には父の名声に伴うイメージのほかにどのような物語

が含まれていたのだろうか。表紙に付随した短い文章から、彼女たちは資本主義経済の進展の中から生まれてきた新しい上流階級や華族や文化人の令嬢であると語られている。そして名門女学校出身かあるいは在学中の才媛であることも示されている。そして表紙の写真が映し出したのは流行の髪型と服装であり、ピアノや弦楽器を手にしていたり、大型犬と一緒に写っていたりした。さらにその背景となる邸宅や庭園は、庶民の家や庭とは違っていた。そして写真というメディアに切り取られた表象からは、元気潑刺とした令嬢と、将来は良妻賢母になるであろう令嬢とが見て取れる。前者は石井礼子さん(2383)、松本繁子さん(2397)、千種チェリーさん(2401)、帆足喜與子さんとみち子さん(2405)、西郷従道のお孫さん(2448)などで、意志の強さが伝わってくる。一方、渡邊愛子さん(2423)、高橋たけゑさん(2428)、澤村榮乃さん(2435)、森雛子さん(2439)、池田静子さんと温子さん(2440)、井上敬子さん(2485)などはおとなしそうで優しそうな雰囲気が表現されている。

一方女学生は、表紙に使われる回数は少なく、さらに匿名性が高い。十五年戦争下で、女学生の活躍が取り上げられる機会が増える状況とは違いが見えてくる。

女優、踊り子など

有名人としての女性が極端に少ないのは、この時代の特徴といえるのだろうか。関東大震災後の復刊第一号(1923.11.4)には、前掲したように矢島楫子、柳原燐子、与謝野晶子、九条武子などの有名な女性が写真入りの記事として取り上げられていた。しかし彼女たちが表紙を飾ることはなかった。その一方で有名であってもなくても女優や踊り子は登場回数が多い。そして彼女たちはさすがだが、絵になる素材である。新派女優として有名だった水谷八重子(NO.2392)は、表紙では天洋丸で22日に帰朝したとある。八重子は双葉女学校在学中から映画「寒椿」に出ていたため、実名を出せず「覆面の令嬢」として出演していた⁽¹⁷⁾というお嬢様でもあった。

この時代の映画を紹介した記事がある。松竹蒲田映画「昭和の女」について、「美容院を中心に今日の世相を赤裸々に描破した風刺喜劇である。モダンガールを付け狙うモダンボーイ、モダン爺、扱てはモダンボーイを張り合う年輩の女とモダンガールなど、全編を通じて滑稽味と嬌笑を誘う⁽¹⁸⁾」という。女優さんはモダンガールを演じてもいたのだ。

表紙には踊り子さんも登場している。目立つのは石井舞踊研究所の生徒さんだ。この研究所は1928年に帝国劇場歌劇部の第1期生としてバレエを習得した石井行康が始めたという⁽¹⁹⁾。バレエのお稽古をして将来のプリマを目指した生徒さんたちがモデルだったのだろう。表紙には多くの外国の女優さんや踊りさんが登場している。朝日新聞社は1924年には『アサヒグラフ』から枝分かれした月刊『映画と演芸』を生んだ。臨時号だったものが好評で、読者からの要望により、定期刊行物となったという。この雑誌は1936年に

『映画朝日』と改題された⁽²⁰⁾。こうした背景があって、映画や舞台に関する情報を得やすかったと想像できる。さらに昭和の初め頃の『アサヒグラフ』は、我が国唯一のグラフ雑誌で、当時のモダニズムの先端をゆく週刊誌だった。とにかく新しいものを創ろうという意気込みで燃えており、さらに東京朝日新聞社グラフ部は『アサヒグラフ』『同海外版』『映画と演芸』『アサヒカメラ』の4誌を経営することになった⁽²¹⁾。映画情報も、海外情報もお手の物だったのだ。こうしてみると外国の女優さんや踊り子さんを多く登用できたのもこうしたルートがあったからなのかもしれない。

(2) 男性たち

男性陣は取り上げられた数が女性たちに比べて圧倒的に少ないが、目立ってみられるのは近代日本の形成に力を尽くした人々たちだ。櫻井錠二博士 (NO.2406) は、第三回汎太平洋学術会議会長をつとめた。この回は特集号となっている。日本近代化学の礎を築いた人物で、理化学研究所や日本学術振興会の設立などに寄与し、東京帝国大学理科大学長、帝国学士院院長、貴族院議員、枢密顧問官などを歴任した⁽²²⁾。27年3月2日号の渋沢栄一子爵の表紙資料はないが、渋沢は1867年に徳川昭武に従ってパリ万博を見聞して西洋事情を知る。明治維新後は、大蔵省の一員として新しい国作りに参画、その後は第一国立銀行の頭取となり、企業の設立、育成に尽力し、1931年に亡くなった⁽²³⁾。27年4月27日号の新総理大臣となった男爵田中義一 (NO.2427) は山口県萩の出身で、陸軍大将、陸軍大臣を歴任し、1927年に総理大臣に就任した⁽²⁴⁾。28年5月16日号の東郷元帥の表紙はないが、日清・日露戦争で活躍した海軍軍人で、1913年に元帥となる⁽²⁵⁾。国際水泳大会百メートルの覇者ワイズ・ミュラー (NO.2496) は水泳競技の花形でもあったが、その後は映画でも活躍し、1932年に制作された映画『ターザン』の主役だった⁽²⁶⁾。そして少ない登場回数政治家の中で、安部磯雄 (NO.2467) は異色であろう。お嬢さんと一緒に写っているので、令嬢の項で取り上げたが、彼は早稲田大学の野球部を創設した大学人であり、野球人でもあり、社会民衆党委員長を務めた政治家だった。さらに「女権運動史資料」「婦人問題」「婦人参政権」「婦人ト宗教」「我が国ニ於ケル女子職業ノ増加表」等の論文や研究ノートを残した⁽²⁷⁾フェミニストでもあった。

(3) 皇室、王室

皇族や王族の記事は昔から変わらずニュースネタだ。中でも大正天皇の御大葬は皇太子が御見舞をされた記事 (NO.2412) 以降、8号 (NO.2413-2419) にわたって続き、黒枠付きだ。さらに昭和天皇の御大典号は (NO.2497) から (NO.2500) の合計5号だ。さらに秩父宮の洋行、松平勢津子姫との結婚等が話題になった。ヨーロッパの王族の方々が来日

された際も特集号が出た。

近代女性イメージを調べた川村邦光によれば、大正末期から昭和初期にかけては、皇室の家庭写真めいたものが現れてくる。1924年の皇太子成婚、皇太子夫妻の写真などは、1960年代あたりから女性週刊誌で始まる天皇ファミリー演出の先駆けだという。戦後のようにいかにも和やかな家庭という演出はないが、日中戦争の開始前には、超「高貴御家庭」の聖家族の肖像写真がときおり姿を見せて、究極の「ブルジョア家庭」モデルが示されていた。また当時名実ともに高貴御家庭の貴婦人のモデルとして人気があったのが梨本宮妃伊都子だった。その姪の松平節子（勢津子）が秩父宮妃となった。しかし節子は平民であり、皇室典範によって皇族とは結婚できないため、子爵松平保男の元に入籍しての結婚となったが、平民と皇族の婚姻として話題になった。節子の父恒雄はアメリカ大使だったから、ニューヨーク近郊での避暑地の生活やブルジョア家庭の生活は雑誌などでも紹介された⁽²⁸⁾という。

皇族の結婚は昔も今も人びとの格好の話題である。平民からの輿入れとして大騒ぎとなった正田美智子さん（現皇后）の例、そして父が外交官でご本人も外交官として歩き始める矢先だった小和田雅子さん（現皇太子妃）の例を思い起こすことができよう。聖家族の一員と同窓になる学習院のお嬢様方が一堂に会した28年10月3日号（NO.2493）はその典型である。

こうしてみると1924年の皇太子ご成婚以降、このアサヒグラフを飾った28年1月18日号、7月4日号、10月3日号などの秩父宮のお妃に選ばれた松平節子姫の近況の表紙写真は、皇族の生活が人びとの話題として取り上げられる格好の題材となり得ていたのだ。

まとめ

このように1926年から30年までは男女比を見ると女性がダントツに多い。海外や日本の女優や映画スターもいるが、圧倒的に多いのが「令嬢」の写真である。そしてニュース性のある政治家や学者や文化人、役者の顔もたまにあるが、男性の写真がとても少ない。

26年から30年までは、上流階級の令嬢が多く登場し、ジェンダーバイアスだけではなく、階級バイアスを強く見ることができるといえるのではないだろうか。彼女たちはこの時代のあこがれの対象たり得たのであろうし、少女雑誌などのモデルでもあったのだらうと推測される。

皇族では1926（大正15）年12月22日号では「聖上陛下御見舞の東宮同妃両殿下」とあり、翌年の1927年1月1日号、5日号、19日号、26日号、27年2月2日号、9日号、16日号は「大葬」特集号で、黒枠がかかっている。

1931年から40年までの雑誌が手に入らなかったのも、この間の事情に触れることはできないが、1937年7月28日号から、特集「北支事変画報」第1報として戦争写真が取り

上げられ、やがて誌面の大部分を日中戦争の戦争写真に割かれるようになってゆく⁽²⁹⁾。

1941年の雑誌には「共に戦う心で援護」という標語が登場してくる。そして42年以降の雑誌は「大東亜戦争報道」一色となる。こうして国家の縛りがかけられていた太平洋戦争中の『アサヒグラフ』の表紙は、男中心の世界となる。

川村は日中戦争が開始されるに及んで、ブルジョア家庭モデルの写真は跡形もなく消え、天皇は軍服姿の単独写真となり、限りなく“現人神”へと超絶すると述べている⁽³⁰⁾。

アジアからの記事はない。

おわりに

表紙が語る昭和初期という趣となった。今回は表紙を眺めていて、そのぬきんでた特徴を発表の中心においた。次回は今回の分析との比較の視点から、第二次大戦下に発行された表紙を分析してゆきたい。

引用文献と註

- (1) 神田より子「銃後の若き<戦士>たち－『青年(女子版)』から」敬和学園大学戦争とジェンダー表象研究会編 インパクト出版 2008年 pp23-44、神田より子「日本における第一次大戦から第二次大戦勃発に至る女子青年団とその雑誌の変遷」『敬和学園大学人文社会科学研究所年報』第6号 2008年 pp13-32、神田より子「『アサヒグラフ』に見る女子の戦争参加への道について－1941（昭和16）年10月8日号－1944（昭和19）年3月29日号－」は未刊行
- (2) 岡田任雄『朝日新聞出版局史』朝日新聞出版局 1969年
- (3) 前掲2に同 pp62－78
- (4) 『社報』（大正11年12月28日号）前掲2に同 pp62－78
- (5) 前掲2中の出版関係略年表には、「23年9月15日大阪本社より『大震災写真画報』（全3冊）刊行開始。9月25日第2輯、10月7日第3輯刊。合計100万部を売り尽くしてベストセラー」とある。
- (6) 前掲2に同 p72
- (7) 井上祐子『戦時グラフ誌の宣伝戦－15年戦争下の「日本」イメージ』青弓社 2009
- (8) 前掲2に同 pp75－78
- (9) 河北新報社編集局『河北新報の一番長い日震災下の地元紙』河北新報社 2011
- (10) 井上祐子 前掲7に同
- (11) 音羽屋 尾上菊五郎 菊の助 公式ホームページより
- (12) www2.kokugakuin.ac.jp 國學院大學学術フロンティア事業実行委員会hpより
- (13) 高橋晴子『年表 近代日本の身装文化』三元社 2007 p292
- (14) 今田絵里香『少女の社会史』勁草書房 2007 pp73、74より 1930年9月号の『少女画報』の表紙は高島華宵画でヴァイオリンを弾く少女の絵「月に輝く」だ。また1936年10月号の『少女の友』の表紙は中原淳一画でピアノを弾く少女の絵「ピアノ」だ。
- (15) 佐久間りか「写真と女性－新しい視覚メディアの登場と「見る／見られる」自分の出現－」奥田暁子編『女と男の時空 日本女性史再考v 闘ぎ合う女と男－近代－』藤原書店 1995 pp187－217
- (16) 佐久間りか 前掲15に同 p205
- (17) 劇団新派公式サイト「俳優名鑑」より
- (18) 1928年「国民 7/19(8)」高橋晴子 前掲13に同 pp350－351
- (19) Isii Akadémie de Ballet 公式ホームページより
- (20) 前掲2に同 p74
- (21) 前掲2に同 pp76－77、p88
- (22) www.j-sakura.ne.nuから「日本近代化学の礎を築いた一人の科学者 櫻井錠二（1858～1939）」を参照
- (23) 公益財団法人渋沢栄一記念財団公式ホームページより
- (24) www.ndl.go.jp/portraaaaait/datas/126.html?c=2 国立国会図書館 近代日本人の肖像「田中義一生誕地」より
- (25) 同上 国立国会図書館hp 近代日本人の肖像「東郷平八郎」より
- (26) <http://www.ivc-toky.o.co.jp/o.co.jp/yodogayodogawawa//titletitle/y/odo2170.htmlco.jpco> 淀川長治監修「世界クラシック名画撰集」
- (27) <http://www.waseda.jp/archives/abe.pdf> 安部磯雄文庫－早稲田大学
- (28) 川村邦光『乙女の祈り－近代女性イメージの誕生－』紀伊國屋書店 1993 pp176－179
- (29) 前掲2に同 p78
- (30) 前掲28に同



CIMG2372



CIMG2373



CIMG2374



CIMG2375



CIMG2376



CIMG2377



CIMG2378



CIMG2379



CIMG2380



CIMG2381



CIMG2382



CIMG2383



CIMG2384



CIMG2385



CIMG2386



CIMG2387



CIMG2388



CIMG2389



CIMG2390



CIMG2391



CIMG2392



CIMG2393



CIMG2394



CIMG2395



CIMG2396



CIMG2397



CIMG2398



CIMG2399



CIMG2400



CIMG2401



CIMG2402



CIMG2403



CIMG2404



CIMG2405



CIMG2406



CIMG2407



CIMG2408



CIMG2409



CIMG2410



CIMG2411



CIMG2412



CIMG2413



CIMG2414



CIMG2415



CIMG2416



CIMG2417



CIMG2418



CIMG2419



CIMG2420



CIMG2421



CIMG2422



CIMG2423



CIMG2424



CIMG2425



CIMG2426



CIMG2427



CIMG2428



CIMG2429



CIMG2430



CIMG2431



CIMG2432



CIMG2433



CIMG2434



CIMG2435



CIMG2436



CIMG2437



CIMG2438



CIMG2439



CIMG2440



CIMG2441



CIMG2442



CIMG2443



CIMG2444



CIMG2445



CIMG2446



CIMG2447



CIMG2448



CIMG2449



CIMG2450



CIMG2451



CIMG2452



CIMG2453



CIMG2454



CIMG2455



CIMG2456



CIMG2457



CIMG2458



CIMG2459



CIMG2460



CIMG2461



CIMG2462



CIMG2463



CIMG2464



CIMG2465



CIMG2466



CIMG2467



CIMG2468



CIMG2469



CIMG2470



CIMG2471



CIMG2472



CIMG2473



CIMG2474



CIMG2475



CIMG2476



CIMG2477



CIMG2478



CIMG2479



CIMG2480



CIMG2481



CIMG2482



CIMG2483



CIMG2484



CIMG2485



CIMG2486



CIMG2487



CIMG2488



CIMG2489



CIMG2490



CIMG2491



CIMG2492



CIMG2493



CIMG2494



CIMG2495



CIMG2496



CIMG2497



CIMG2498



CIMG2499



CIMG2500



CIMG2501



CIMG2502



CIMG2503



CIMG2504



CIMG2505



CIMG2506



CIMG2507



CIMG2508



CIMG2509



CIMG2510



CIMG2511



CIMG2512



CIMG2513



CIMG2514



CIMG2515



CIMG2516



CIMG2517



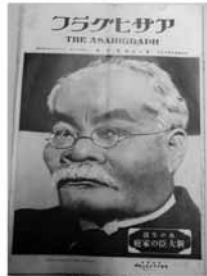
CIMG2518



CIMG2519



CIMG2520



CIMG2521



CIMG2522



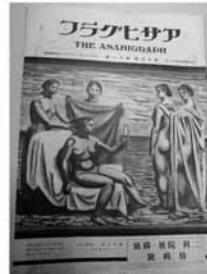
CIMG2523



CIMG2524



CIMG2525



CIMG2526



CIMG2527



CIMG2528



CIMG2529



CIMG2530



CIMG2531



CIMG2532



CIMG2533



CIMG2534



CIMG2535



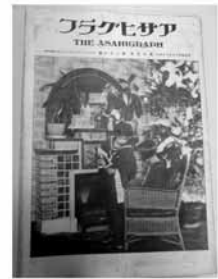
CIMG2536



CIMG2537



CIMG2538



CIMG2539



CIMG2540



CIMG2541



CIMG2542



CIMG2543



CIMG2544



CIMG2545



CIMG2546



CIMG2547



CIMG2548



CIMG2549



CIMG2550



CIMG2551



CIMG2552



CIMG2553



CIMG2554



CIMG2555



CIMG2556



CIMG2557



CIMG2558



CIMG2559



CIMG2560



CIMG2561



CIMG2562



CIMG2563



CIMG2564



CIMG2565



CIMG2566



CIMG2567



CIMG2568



CIMG2569



CIMG2570



CIMG2571

アサヒグラフ1926年3月24日号～1944年3月29日号

号	表紙	女	男	皇室・王族	その他	備考	ドイツ大使	外国人	写真番号
26.	春の夜の舞踏会	3人					ドイツ大使	外国人	2372
3.31	二見浦の澄宮様			宮様					2373
4.	皇孫照宮成子内親王殿下1人	1人		内親王					重複2374
4.14	大阪松竹座「桜の巻」	3人			芝居	女優			2375
4.21	竜田静枝、三島洋子、衣笠英子さん達	2人							2376
4.28	水仙を摘む少女								2377
5.	雄々しき澄宮殿下		4～5人	宮様					2378
5.12	徳川頼貞侯邸園遊会		1人			上流階級の遊び			2379
5.19	菊五郎の助六	1人					女優		2380
5.26	小桜葉子さん	1人							2381
6.	石井淳氏令嬢礼子さん	1人				令嬢			2382
6. 2	東京赤坂井慶橋	2人							2383
6. 9	ユニバーサルの新スタースタープランチメハフティさん	1人							2384
6.16	ユニバーサルの新スタースタープランチメハフティさん	1人							2385
6.23	松井千枝子さん	1人			クジャク				2386
6.30	栄輝	1人							2387
7.	7. 7 波間におどる	1人							2388
7.14	涼風をはらんで	3人			ヨット				2389
7.21	中禅寺湖の夏				遠景				2390
7.28	池のほとり	1人			睡蓮				2391
8.	8. 4 天洋丸の水谷八重子さん	1人			動物				2392
8.11	鎌倉海岸にて	4人	1人						2393
8.18	怒濤の戯れ	1人							2394
8.25	由比ヶ浜にて石井舞踊の花形	1人							2395
9.	9. 1 瑞典皇太子歓迎号	1人		王族					2396
9.	9. 8 明治や重役松本新太郎氏令嬢繁子さん	1人				令嬢			2397
9.15	正宗徳三郎「コスチューム」	1人			絵画				2398
9.29	ユナイテッド社のマーナ・ケネティさん	1人							2399
10.	10. 6 美業家千種兵太郎氏令嬢チエリーさん	1人				令嬢			2401
10.13	公爵タイム夫人令嬢ドンナ・マリアさん	1人				外国人令嬢			2402
10.20	パッシィ・ルース・ミラー嬢	1人							2403
10.27	田邊至昨「裸婦」				絵画				2404
11.	11. 3 早稲田大学教授帆足理一郎氏令嬢喜與子さんとみち子さん								2405
11.10	桜井錠二博士		学者						2406
11.17	宮中顧問官医学博士井上道泰氏令嗣忠氏夫人敏子さん								2407

11.24	記念保存となった「三笠」公園「この一戦」				船		2408
12. 1	獅子の仔とわんわん	1人			犬		2409
12. 8	ナンシー・ケリーさん	1人				5歳の女優	2410
12.15	照宮成子内親王	1人					2411
12.22	聖上陛下御見舞の東宮同妃両殿下	(1人)	(1人)		皇族		2412
27. 1. 1	弔旗のかげに玉の宮居を拝す				皇族		2413
1. 5	新天子登極第一の大儀たる朝見のお式に赤坂離宮を御出門				皇居		2414
1.12	秩父宮殿下	1人			馬車の列	馬車の列	2415
1.19	英国ご出発の秩父宮殿下	2人			皇族		2416
1.26	秩父宮殿下御乗船のサイベリア丸				船		2417
2. 2	御大葬第一輯				菊の紋の提灯		2418
2. 9	御大葬第二輯				皇居		2419
2.16	御大葬第三輯				窓華鞆所に向かう		2420
3. 9	モオリス・ドニ「紫陽花と嬰兒」				絵画		2421
3.16	山陰線餘部鉄橋付近奥丹大地震				震災		2422
3.30	渡邊昭伯令妹愛子さん	1人			令嬢		2423
4. 6	異境に咲く誇る桜花	1人			ワシントンポトマック川		2424
4.13	米国シカゴの日本領事夫人が催した子供のあつまり	数人	数人		飛行船		2425
4.20	N3号航空船						2426
4.27	新総理大臣田中義一				政治家		2427
5.18	高橋たけゑさん	1人			素封家の令妹		2428
5.25	岩倉具視男爵令嬢嘉子さんと直子さん	2人			令嬢		2429
6. 1	夏めくセルの頃	1人	1人				2430
6. 8	小石川植物園	2人					2431
6.15	マーカス・アダムス「笛吹き」	1人			絵画		2432
6.22	窪田四郎氏令嬢雪子さん	1人			令嬢		2433
6.29	銀座にて	1人			令嬢		2434
7. 6	澤村榮乃さん	1人			令嬢		2435
7.20	スカーパーロー海岸	7人				外国人	2436
7.27	川端龍子令嬢千草さん	1人			馬		2437
8. 3	真駒内道庁種育場						2438
8.17	森雛子さん	1人			令嬢		2439
8.24	池田仲博侯令嬢静子さんと温子さん	2人			令嬢		2440
8.31	比名子実三「雷雲」				彫刻		2441
9. 7	秩父宮殿下	3人					2442
9.14	無心のほほえみ	2人				外国人の双子	2443

9.21	川端龍子「湯治」	1人	絵画		2444
9.27	谷崎龍子さん	1人	女優		2445
10. 5	大森の星野米子さん	1人	令嬢		2446
10.12	マルタ・マジソン	1人	女優		2447
10.19	西郷従道侯清子未亡人とお孫さん	3人	有名人の家族		2448
10.26	安宅安五郎「五人の子供」	多数	女学生		2449
11. 2	明治神宮	多数	母と子たち		2450
11. 9	七五三のお祝い	1人	踊り子		2451
11.16	ポーリー・ウオーカー	2人	令嬢		2452
11.23	東春子さん、冬子さん	4人	女優		2453
11.30	師走狂言のお稽古	1人	風景		2454
12. 7	浅草新田羽子板店で	1人			2455
12.14	銀座	1人			2456
12.21	サリー・フィリップ	1人	女優		2457
28. 1. 4	イギリス実業家ハリソン夫人	1人	良家の夫人		2458
1.11	赤倉スキー場で練習中の東京府第六高女生	4人	女学生		2459
1.18	松平節子嬢	1人		表紙裏2461クラブ白粉	2460
1.25	16日藪入りのえんまさま	1人	仏像		2462
2. 1	関温泉幕の沢練習場で	1人			2463
2. 8	蒲すゞ子さん	1人	令嬢		2464
2.15	普選号				2465
2.29	普選議員写真名鑑				2466
3. 7	安部磯雄氏と令嬢	1人	政治家と令嬢		2467
3.14	佐藤市太郎氏令嬢豊子さん	1人	令嬢		2468
3.21	幼稚園の嬢ちゃんたち	多数	令嬢たち		2469
3.28	東洋の空へ一周飛行の勇士来る	1人	飛行士		2470
4. 4	林博太郎伯令嬢寿子さん	多数	令嬢		2471
4.11	大阪松竹座春の踊り	1人	女優		2472
4.18	新しいスボーツ婦人帽	1人		外国人のモデル	2473
4.25	小さい博物学者	2人	子供		2474
5. 2	輝く日傘	4人	若い女性		2475
5. 9	藤間静枝一門の良さんとみよ子さん	2人	令嬢		2476
5.16	東郷元帥	1人		表紙なし	2477
5.23	初夏のよそおい	1人		外国人の女性	2478
5.30	御子柴初子さん	1人	水泳選手		2479
6. 6	水銃砲であそびませう	少年			

6.20	流行 山と水	3人				踊り子	2480
6.27	夏の展望	1人	男児				2481
7. 4	松平節子姫	1人		皇族			2482
7.18	七夕祭り	1人	1人				2483
7.25	烏帽子岳と立山	1人	1人		登山		2484
8. 1	井上綾太郎氏令嬢敬子さん	1人			令嬢		2485
8. 8	鎌倉海岸にて	3人			水遊び 風景		2486
8.15	海豹島の奇観						2487
8.22	ハッタ取り		児童				2488
8.29	全国中等学校野球決勝戦		野球場での応援				2489
9. 5	松竹蒲田の藤田房子さんと陽子さん	2人				女優	2490
9.19	秋の大跳躍	3人				外国人ダンサー	2491
9.26	秋の収穫	2人	1人		刈り取り風景		2492
10. 3	秩父宮妃殿下お別れの集まり	2人	1人				2493
10.10	栗島すみ子の「四君子」	3人と大勢		皇族と		女優	2494
10.17	堂本印象作「菟淵」	1人			絵画		2495
10.24	百メートルの覇者ワイズミユラー君	子供大勢				水泳選手	2496
11. 7	御大典号 第一輯	2人					2497
11.14	御大典号 第二輯	4人					2498
11.28	大饗第一 御大典第四輯	大勢	大勢		風景		2499
12. 5	御還幸啓奉迎の文武百官	大勢	大勢			内閣一同と夫人たち	2500
29. 1. 1	羽子板遊び	2人					2501
1. 9	秋田女子師範学校前	4人	1人				2502
1.16	羽左衛門の松王丸	少年男女各1人					2503
1.23	米の上の遊び仲間	1人			冬の遊び		2504
1.30	ひなたぼっこ	1人					2505
2. 6	女子整容大学園山本久栄さん	1人				有名人	2506
2.13	横浜植木会社にて	2人			植物園		2507
2.20	野外練習に出る石井舞踊研究所の生徒さんたち	4人				踊り子	2508
2.27	ひな人形	1人					2509
3. 6	花柳書満さんと濱田尚子さん	2人				有名人	2510
3.13	ラグビー解説	1人					2511
4.24	クロスター公殿下	1人	1人	王族		外国人女兒	2512
5. 1	鯉のぼりの製造	数人			季節の風物詩 ひな鳥		2513
5. 8	春のグラウンド						2514
5.29	新緑の頃	2人					2515

6. 5	石井舞踊研究所の小浪さんと百々さん	2人				ダンサー	2516
6.12	聖上関西行幸	1人			表紙は外国人		2517
6.19	波間のたわむれ	2人			水着姿の女性たち		2518
6.26	駒ヶ岳爆発					表紙なし	
7. 3	戸田道氏令妹理知子さん	1人			令嬢		2519
7.10	モダン弥次喜多東海道自動車行脚		1人		車と景色		2520
7.17	写真漫画得意のライオン首相		1人				2521
7.24	12泊の避暑地		少年男女各1人		飛行船		2522
7.31	近く飛来のツエッペリン号		多数				2523
8. 7	大会旗掲揚式		2人				2524
9. 4	秋の点景	2人					2525
9.11	児島善三郎作「審判の前」				絵画	外国人	2526
9.18	秋のコート	1人					2527
9.25	笹田美佐子さんと轟美津子さん	2人			令嬢		2528
10. 2	米國戦闘艦隊				戦闘艦隊		2529
10. 9	齒に爽やかな秋	1名					2530
10.23	小柴錦侍作「アリス」				絵画		2531
10.30	富士の初雪				風景		2532
11. 6	上野動物園のライオンの赤ちゃん				動物		2533
11.13	友の妙技に驚喜する女学生	多数			女学生		2534
11.20	米國の農村の少女たち	8人				外国人	2535
11.27	本田福之助氏令嬢美江子さん	1人			令嬢		2536
12. 4	お正月の買い物	家族2人	2人		家族写真		2537
12.11	おやつ	少女1人					2538
12.25	タイトルなし	2人					2539
30. 1. 8	代議士磯野庸幸氏令嬢寿子さん	1人			クリスマス飾りつけをする少女		2540
1.15	スキー場のお嬢さん	2人			令嬢		2541
1.22	東武鉄道支配人塚田氏令嬢君子さん、秀子さん	2人					2542
1.29	タイトルなし				ハンジョーを弾く多数のピエロの人形		2543
12.17	兵隊さんの生活	1人				裏表紙2544	2545
41.10. 8	猛進撃の我が勇士(湖南戦線にて)		兵士4人				2546
10.22	お慶び近い高木百合子嬢	1人			「共に戦う心で援護」(標語)		2547
					「切らすな慰問缺かすな援護」(標語)		
42.6.10	大東亜戦争第24報「珊瑚海に輝く歴史的記録」		兵士2人				2548
6.17	大東亜戦争第25報「我が猛攻に燃える敵船」		比島住民8人		「遺家族を護る心が國護る」(標語)		2549

6.24	大東亞戦争第26報「重慶軍挾撃の態勢成る」	前線觀察の寺内司令官「貫け聖戦ぬかるな援護」(標語)	2550
7.15	大東亞戦争第29報「アリユーシャン列島上陸進撃」	敵機撃墜の火を吐く機銃「頼まう一線励まう援護」(標語)	2551
7.22	大東亞戦争第30報「北阿に拳る枢軸軍の凱歌」	爆砕の巨弾横込「貫け聖戦ぬかるな援護」(標語)	2552
7.29	大東亞戦争第31報「山西作戦 峻険に敵を衝く」	原住民の子供をいたわる陸戦隊勇士「今日も持ち場で護るぞ銃後」	2553
8.12	大東亞戦争第33報「空の軍神・加藤健夫少将」	陣中における軍神加藤少将「隣組今日も援護に総だすぞ」	2554
9. 2	大東亞戦争第36報「鉄窓のガンジー」	荒鷲隊勇士と猿 「常会のみず一番は慰問文」	2555
10. 7	大東亞戦争第41報「 <u>軍人援護特報</u> 」 <u>「援護は正に完璧」</u>	軍国の遺族は健か「一億で背負へ誉れの家と人」	2556
10.14	大東亞戦争第42報「帝国海軍大西洋進撃」	見敵必殺の海鷲勇士「捨身の将士に親身の援護」	2557
10.21	大東亞戦争第43報「第二次特別攻撃隊勇士」	海軍工作兵の活躍 「建設へ戦地の友と腕比べ」	2558
10.28	大東亞戦争第44報「侮り難き米の攻勢準備」	スマトラの交通巡查 「切らすな慰問献かすな援護」	2559
11. 4	大東亞戦争第45報「南方戦に輝く軍陣医学」	ジャワの警官を指導の皇軍勇士「つづくぞ聖戦つづけよ援護」	2560
12. 2	大東亞戦争第49報「北辺の衛固し最前線」	陸軍少年通信兵の高速度受信「鬼神の勲に明るい日本」	2561
12.16	大東亞戦争第51報「躍進する支那大陸の姿」	模倣飛行機により操縦を学ぶ陸軍少年飛行兵「続くぞ聖戦奢るな銃後」	2562
43. 2.17	大東亞戦争第59報「今日も豊稔を目指して」	南方戦線でも貯金報国 「続くぞ聖戦奢るな銃後」	2563
6. 9	大東亞戦争第75報「遺影に忍ぶ山本元帥」	教官より説明を聞く少年飛行兵「われら山本元帥の英志を継がん」	2564
9.15	大東亞戦争第89報「総力を挙げて航空決戦へ」	独逸補助巡洋艦トール乗組員「今ぞ総力を決戦の大空へ」	2565
12. 1	大東亞戦争第100報「われら忠誠に足らざるなきか」	古賀総合艦隊司令長官 「大東亞戦二周年ただ戦力の増強を」	2566
44 .1.26	大東亞戦争第107報「春場所鉄傘下の決戦」	密林内を進撃するわが勇士 「一億の総意今ぞ航空機の増産へ」	2567
2.16	大東亞戦争第110報「戦列に立つ女性たち」	軍神広瀬中佐の肖像 「日常の生活をあげて戦力増強へ」	2568
3.29	大東亞戦争第116報「前進する女子勤労挺身隊」	潜水艦上に於ける砲撃訓練 「勝ち抜き耐え抜き援け抜き」	2569

2011. 3.30 緊急復刊アサヒグラフアサヒグラフ東北関東大震災2011.3.11全記録(5060号)
2570
(2571)